

うつ病/大うつ病性障害の診断基準

アメリカ精神医学会の診断基準では、うつ病であるかどうかの基準は、表のとおりである。次の基準に合致するのを「抑うつエピソード」という。

第1 「抑うつエピソード」

(A) 以下の症状のうち5つ(またはそれ以上)が同じ2週間の間に存在し、病前の機能からの変化を起こしている。 これらの症状のうち少なくとも一つは ①抑うつ気分か ②興味または喜びの喪失 である。
①抑うつ気分がある(気分が重く沈みこむ)(ほとんど1日中、ほとんど毎日)
②ほとんどすべての活動に興味がない、または喜びの著しい減退。(ほとんど1日中、ほとんど毎日)
③食欲の減退または増加、体重の減少または増加
④不眠または過眠
⑤精神運動性焦燥(いらいら)または制止(動きがにぶい)
⑥疲労感、または気力の減退
⑦無価値感、罪責感
⑧思考力や集中力の減退、または決断困難
⑨死についての反復思考、特別な計画はないが反復的な自殺念慮、または自殺企図、または自殺するためのはっきりとした計画
(B)その症状は、臨床的に意味のある苦痛、または社会的、職業的、または他の重要な領域における機能の障害を引き起こしている。
(C)その症状は、物質(乱用薬物、投薬)の生理学的作用、または他の医学的疾患 によるものではない。
注)重大な喪失(死別反応、経済的破綻、災害による損失など)の場合にも、類似のエピソードがある。

つまり、抑うつエピソードに該当すれば、うつ病である。

それぞれ、現在の状況は、2つに分かれる。

- 抑うつエピソードを完全に満たしている場合

- 抑うつエピソードを完全に満たしていない場合

第2 症状の程度と症状の特徴

うつ病(完全に満たす場合であれ、満たさない場合でも)の場合、症状の程度や特徴をアセスメントする。

- 症状の程度
 - 軽度 = 診断基準を満たすために必要な数の症状がない(2つくらい)、症状は社会的または職業的機能に軽度の障害
 - 中等度 = 重度と軽度の間(3つの症状)
 - 重度 = 症状の数が基準を充分満たす、症状は非常に苦痛、症状は社会的または職業的機能を著しく損なう

(参照文献)『DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル』高橋三郎・大野裕監訳、医学書院、2014年